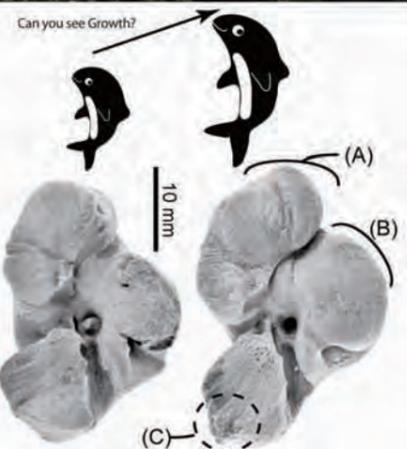
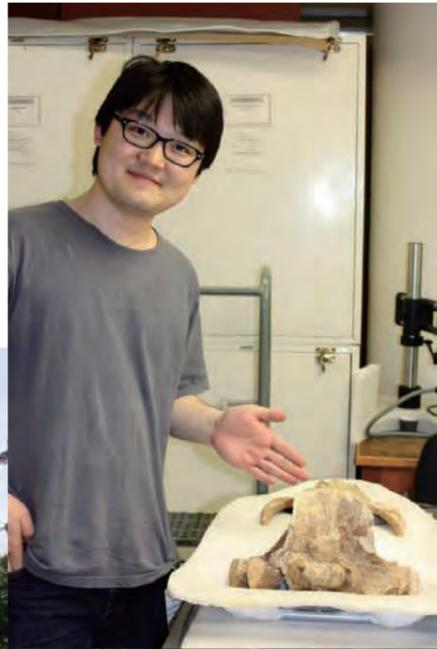




講演会「沼田の化石がわかってきた」

- ◆場所：ゆめっくるホール
無料です、どなたでも
- ◆時間：2017年3月21日（火）
17時30分から18時15分まで

最近、分かってきたヌマタネズミイルカや、小さなクジラ、海外での調査について紹介します。これから続く新発見について皆さんだけに、学芸員がお知らせします。



解説

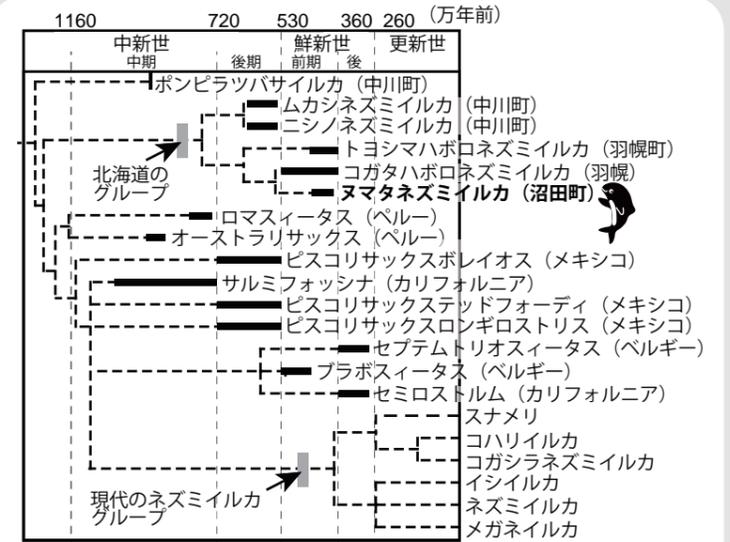
沼田の化石 新発見の予告

学芸員 田中嘉寛

この2年間で、沼田の化石研究が進みました。これまでの成果を振り返り、これからの新発見を予告します。

まず、ヌマタネズミイルカの研究が大きく進みました。16年ぶりに新しい標本が世界に向けて発信されたのが2016年4月と11月です。今まで「世界で一頭」と言われていたヌマタネズミイルカが、今では三頭になりました。それによって、3つの事が分かってきました。「成長」「特徴」「家系図」です。

まず「成長」は若いヌマタネズミイルカの発見によって、どのように形が変化するか明らかになってきました。次に「特徴」は頭の後方から出る神経の穴が特殊な形になっていることから、ヌマタネズミイルカとそれ以外のイルカを簡単に見分けることが出来る様になりました。そして「家系図」が作られ、ヌマタは羽幌のネズミイルカに近いこと、北海道から見つかったネズミイルカの化石たちは、原始的というわけではなく、現代のネズミイルカとは異なったグループであることが明らかになってきました。



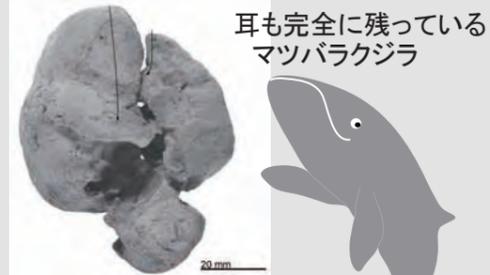
去年11月にはじめて明らかになったヌマタネズミイルカの家系図

ヌマタネズミイルカ以外にも、面白い生き物が沼田に住んでいたことがわかってきています。それが4メートル程度の小型ヒゲクジラです。ヒゲクジラは史上最大の動物とされていますが、沼田にはかなり小さなヒゲクジラがいたことが分かりました。これは、いま原稿を準備しており、これから世界に向けて発信される予定です。

これらはおよそ400万年前の地層（幌加尾白利加層：ほろかおしりかそう）から出てきたイルカとクジラですが、最近、それよりも古い地層から出ているクジラの研究が始まりました。それがマツバラクジラです。マツバラクジラは発見者の松原一雄さん、松原利浩さんの苗字をとった愛称です。よく骨を見てみると、一頭ではなく3頭以上のクジラが混じっていることが分かりました。

そのマツバラクジラの内の一つ、NFL 2083 という識別番号を付けたクジラの年代が最近、調べられました。共同研究者の渡辺真人博士（産業技術総合研究所、つくば）によってマツバラクジラを包む石の中から珪藻という小さな植物を取り出しました。珪藻は時代によって主役がどんどん入れ替わるので、どの珪藻が多いか調べると、どの時代かが分かるようになっていました。調べた結果、マツバラクジラはおよそ700万年前の化石であることが分かりました。その時代は、世界的に見てクジラが珍しい時代です。良くわかっていない時代のクジラが、沼田から見つかっているのです。しかも、マツバラクジラはクジラの中で最も情報が沢山見られる耳骨が全て揃って出ています。とても保存状態の良い化石で、研究はまとまりつつあります。

マツバラクジラは小型のクジラですが、同じ時代から大型のクジラも見つかっています。これは研究が始まったばかりです。これまで述べてきた通り、これからの沼田の化石研究によって、2つの時代のクジラたちのことが次々と明らかになっていきます。



化石館の予定

3月21日 5時30分から
化石トーク（ゆめっくるにて：無料）

4月29日より化石体験館オープン

沼田町化石館だより 91号
発行／沼田町化石館 編集／田中嘉寛
〒078-2202 北海道雨竜郡沼田町南1条2丁目7-49
電話／Fax 0164-35-1034
メール／kaseki@guitar.ocn.ne.jp
ホームページ
<http://numata-kaseki.sakura.ne.jp/index.shtml>